

取扱説明書

PSW-Y1/Z1 ロギング機能検証アプリ 連動操作・テストスタート機能 対応 ＜ LAN インターフェース用 ＞

Version 1.21



＜ソフトウェア使用許諾契約＞

1. 権利の許諾

当社はお客様に対して、本使用許諾契約に同意いただいてダウンロード可能となるソフトウェア及びその関連資料(以下「本ソフトウェア」といいます)に関し、以下の権利を許諾します。

(a) お客様は、本ソフトウェアに対応する当社製品を利用する目的で本ソフトウェアを使用することができます。

(b) お客様は、本ソフトウェアを複製し、1台以上のコンピュータ上で使用することができます。

2. 追加許諾条項

本ソフトウェアを定められた目的に従って使用した結果、作成された各種のファイルは、お客様の著作物となります。

3. 著作権

本ソフトウェア及びその複製物の著作権は当社又は当社が認めた者が有するものであり、日本国著作権法及び国際条約によって保護されています。本使用許諾契約に基づき、お客様が本ソフトウェアを複製する場合は、ダウンロードされた本ソフトウェアに付されていたものと同一の著作権表示がなされることを要します。

4. 禁止事項

本ソフトウェアがソースコードで提供される場合、お客様は、ソースコードを改変したものを当社製として第三者に配布することはできません。

5. 無保証

当社は、本ソフトウェアがお客様特定の目的のために適切であること、もしくは有用であること、又は本ソフトウェアに瑕疵がないこと、その他本ソフトウェアに関していかなる保証もいたしません。

6. 免責

当社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用又は使用不能から生ずるいかなる損害(事業利益の損害、事業の中断、事業情報の損失、又はその他金銭的損害)に関して、一切責任を負いません。

7. 契約の解除

お客様が本使用許諾契約に違反した場合、当社は本使用許諾契約を解除することができます。その場合、お客様は本ソフトウェアを一切使用しないものとします。

＜サポート＞

本ソフトウェアの不具合等のお問い合わせは、当社サービスまでお願いいたします。

不具合の内容に応じて当社が必要と判断した内容に対して対応致します。

＜保証範囲＞

本ソフトウェアのダウンロード・インストールはお客様の責任においておこなっていただきます。また本ソフトウェアは、予告せず改良、変更することがあります。

＜著作権者＞

各ソフトウェアの著作権は、当社に帰属します。

＜各社商標＞

TEXIO は当社の産業用電子機器における製品ブランドです。また、本説明書に記載されている会社名および商品名は、それぞれの国と地域における各社および各団体の商標または登録商標です。

目次

＜ソフトウェア使用許諾契約＞	2
第 1 章 概要	4
1-1 概要	4
1-2 仕様(動作環境)	4
第 2 章 インストールとアンインストールの手順	5
2-1 インストーラの起動	5
2-2 インストールで登録されるスタートメニュー	5
2-3 アンインストール	5
第 3 章 操作画面の機能説明	6
3-1 画面上部の説明	6
3-2 単体操作画面の説明	7
3-3 連動操作画面の説明	10
3-4 起動条件設定画面の説明	12
3-5 State 情報画面の説明	12
第 4 章 操作手順	13
4-1 自動ロギング機能の操作	13
4-2 手動ロギング機能の操作	14
第 5 章 データの保存形式	15
5-1 自動ロギングデータの保存形式	15
5-2 手動ロギングデータの保存形式	16
第 6 章 付録	17
6-1 アプリケーションのフォルダ構成	17
6-2 English モードの表示画面	17

第1章 概要

1-1 概要

本アプリケーションソフトウェアは、PSW-Y1/Z1 のロギング機能を LAN 通信により取得確認する為のサンプルアプリケーションです。

主な機能として PSW-Y1/Z1 を6台まで単体操作や選択チャンネルの連動操作が可能なロギングデータの自動取得モードと手動取得モードがあります。自動取得モードは PSW 本体に USB メモリーを保存した時と同じ保存形式と単にロギングデータを取得し表示する手動モードの2種類があります。

また、連動操作の同期制御タブには選択したタブに同一コマンドを送信する機能と PSW に登録されているテストプログラムの開始および停止を操作する機能があります。

本アプリケーションによりロギングコマンド操作確認や測定結果のログ取得等に活用できます。

本アプリケーションは同時に6アプリケーションの動作が可能になっています。最初に開かれる1番のアプリケーションのみ2～6番のアプリケーションの起動や開始表示位置を設定する機能があります。

本アプリケーションは無償公開のため、サポートは対象外となっておりますのでご了承ください。

1-2 仕様(動作環境)

アプリケーションファイル PSW_TestSt5_LogData.exe	
PC 環境	
OS	Windows 7/8 (.NET Framework 4.0 がインストールされている環境)
インターフェース	LAN (注意:無線 LAN での動作保証できません)
通信方式	IPv4 の TCP ソケット通信
HDD	OS の動作環境を除き 20MB 以上 (PC 内に保存するログデータに依存)
アプリの制御台数	
アプリ同時起動	6 アプリケーション
1アプリ制御台数	PSW 6 台 (PSW-Y1/Z1 オプション対応機種)
操作環境	
操作	1 台毎の単体操作と選択チャンネルの連動操作
接続機器設定	IP アドレス設定 (個々に用意された単体操作画面に設定)
テストスタート機能	連動操作画面にて単体および連動操作が可能 (単体操作画面にはありません)
送信設定	キー入力によるコマンド選択の他にロギング機能確認用に機能ボタンを用意
受信データ	受信処理のデータ表示(1000 行)とロギングデータ表示(250000 行)
ロギングデータの種類	
ロギングデータ	2種類の csv ファイル (手動モード、自動モード)
手動モード	250K までのデータ取得可能、任意のタイミングで手動操作によるデータ保存
自動モード	1K 毎にデータを保存し表示データを初期化
通信の異常処理	
接続処理	接続時に制御対象機器を検出できないと直ぐに Connect Error 表示で終了
タイムアウト	送信は 1 秒、受信は 2 秒 (異常時に他の機器の処理に影響少なくする設定)
送信・受信	通信異常の場合には接続を解除します。(検出は Windows 標準の約 21 秒)

[登録商標について]

Windows、Windows 7/ 8、.NET Framework、Excel は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

第2章 インストールとアンインストールの手順

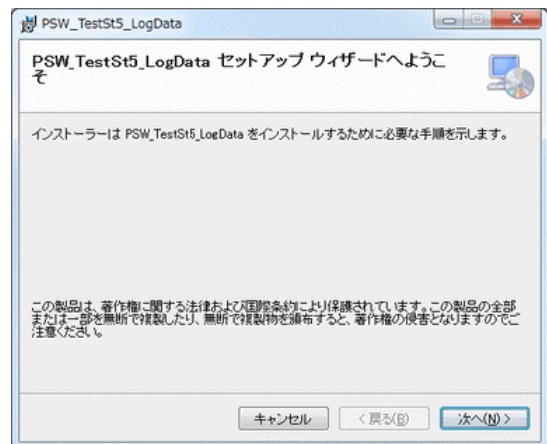
PSW_TestSt5_LogData のインストールを行います。

2-1 インストーラの起動

PSW_TestSt5_LogData フォルダ内の setup.exe を開きます。
右図の様にインストーラの画面が表示されます。

画面の指示に従ってインストールを行います。

(変更がなければ、【次へ】を選択する事でデフォルトのフォルダにインストールします。)



注意)

本アプリは、DotNetFX40、DotNetFX40Client、WindowsInstaller3_1 の Windows ライブラリを使用しています。 ご使用中の PC にライブラリが無い場合には web よりダウンロードしますので、web に接続されている環境で指示に従ってインストールを行って下さい。

補足)

ライブラリの整合が取れていない事でインストールを失敗する場合には setup.msi を選択してください。

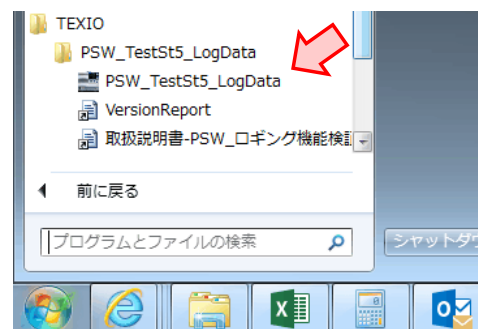
2-2 インストールで登録されるスタートメニュー

インストールが終了するとスタートメニューにアプリケーションと取扱説明書のショートカットが作成されます。

選択は『スタートメニュー』の『すべてのプログラム』を選択して『TEXIO』内の『PSW_TestSt5_LogData』を開きます。

登録されている PSW_TestSt5_LogData を選択します。

(右図は Windows7 での表示形式になります)



2-3 アンインストール

プログラムのアンインストールはコントロールパネル内のプログラムのアンインストールを選択し下図のダイアログボックスを開きます。

リスト一覧より『PSW_TestSt5_LogData』を選択してアンインストールクリックしプログラムを削除します。



第3章 操作画面の機能説明

本アプリケーションは 6 台までの PSW を LAN 接続する設定画面が用意されており、画面上のタブをクリックする事で簡単に表示設定の画面を切り替える事ができます。

本章では機能毎の説明となっています。一連の操作に関しては、次章の操作説明をご覧ください。

3-1 画面上部の説明

画面の上部にある設定条件やデータ保存等の指定を行う共通機能の説明です。

本アプリケーションを初めて起動すると図 3-1 の画面になります。

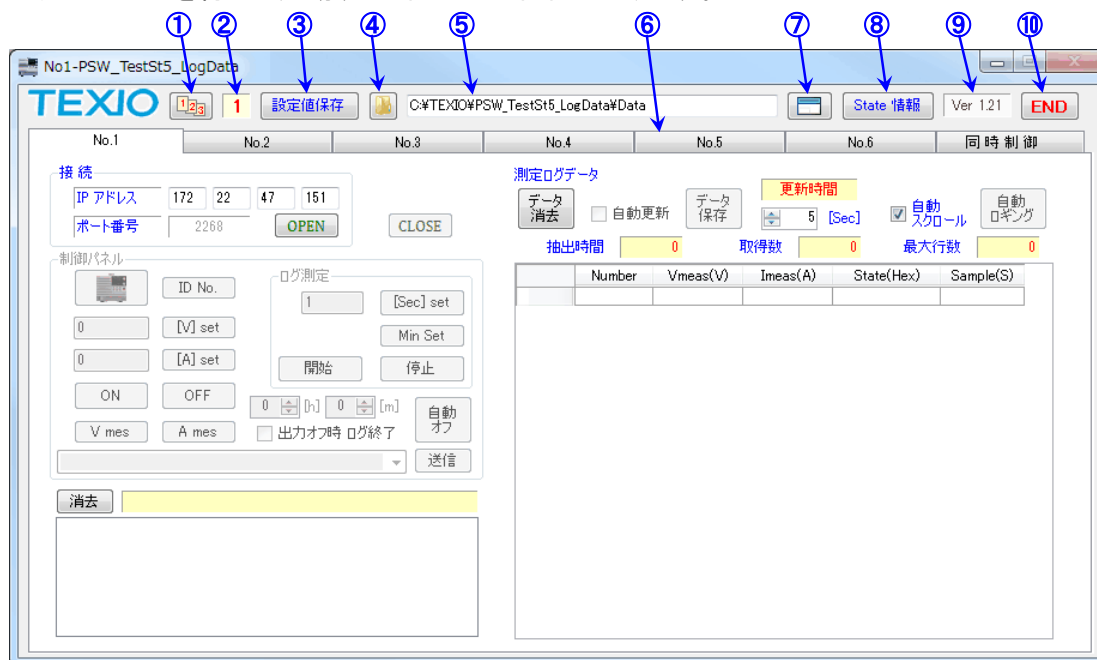


図 3-1

①		本アプリケーションを複数起動させる設定パネルを開きます。 また、日本語または English の表示選択ができます。 この機能はアプリケーション番号の 1 のみ表示されます。
②		本アプリケーション同時に 6 個動作します。 アプリケーションの番号を 1 から 6 で表示します。
③		No1~No6 の設定条件を保存して次回起動時のデフォルト設定値にします。 アプリケーション毎に設定値の保存が必要です。
④		データの保存先のダイアログボックスを使用して選択します。
⑤		データの保存先フォルダ名を設定します。 入力方法は直接キー入力、②のダイアログボックス選択、エクスプローラなどからのフォルダのドロップがあります。 デフォルト設定は本アプリケーションのインストールフォルダに Data フォルダを作成し設定されます。
⑥		接続設定する機器の選択タブです。
⑦		本アプリケーションの起動時の画面サイズを設定します。
⑧		ロギングデータの State(Hex)ビットの内容説明として右図のダイアログボックスを表示します。
⑨		本アプリケーションのバージョン表示です。
⑩		本アプリケーションを終了します。 自動ロギング実行中は無効設定になります。

PSW Logging Status bit code

Bit	Operation ステータス	Bit	Question ステータス
0	校正モード	16	過電圧保護 (OVP)
1	リセット	17	過電流保護 (OCP)
2	出力 OFF/ON	18	AC入力オフ
3	リセット	19	過熱保護 (OTP)
4	リセット	20	過電圧保護 (VLP)
5	リセット	21	過電流保護 (ICP)
6	リセット	22	---
7	リセット	23	---
8	定電圧モード (CV)	24	過電圧保護 (VLP)
9	---	25	過電流保護 (ICP)
10	定電流モード (CC)	26	---
11	出力 ON 領域	27	ソフトダウンアラーム
12	出力 OFF 領域	28	過電圧保護 (VLP)
13	---	29	---
14	テスト実行 (TEST)	30	---
15	---	31	---

3-2 単体操作画面の説明

単体操作画面は図 3-2 のように No1～No6 の個々に独立した操作画面になります。
操作画面にはロギング機能を確認する為に必要な機能の他に出力やオン・オフの操作が簡単にできる操作ボタンが用意されています。単体操作画面の各機能は以下のようになります。

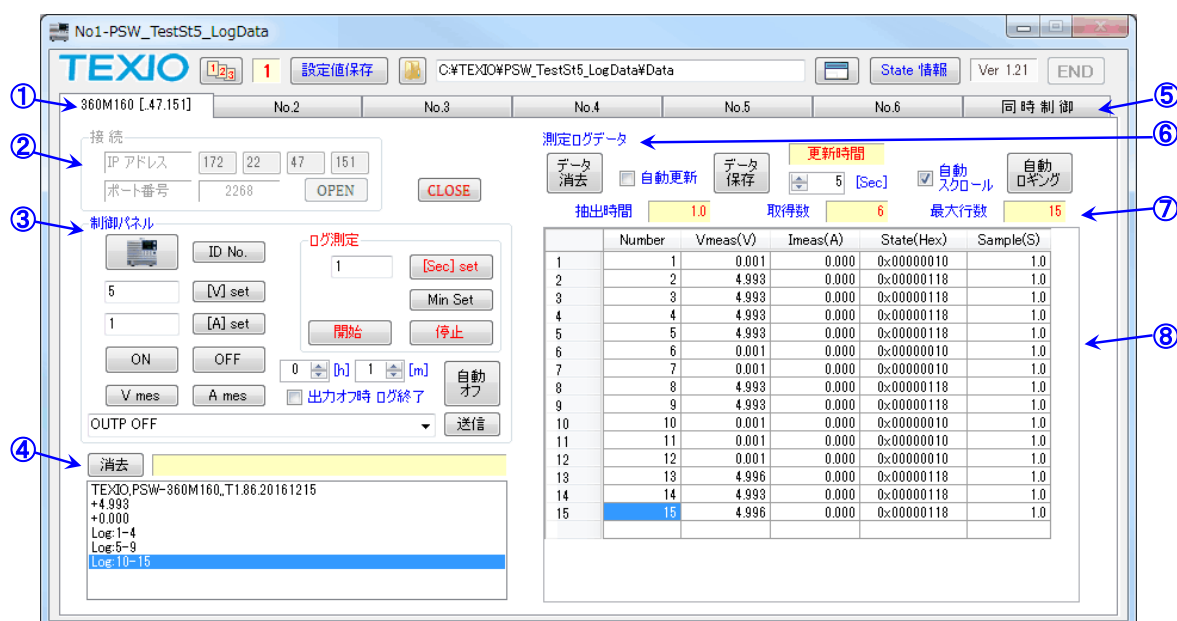


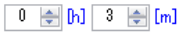

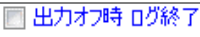

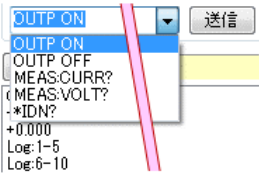


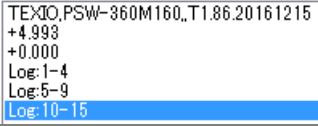
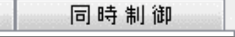



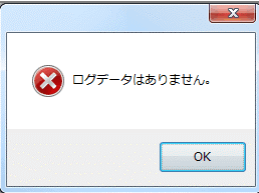

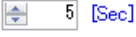
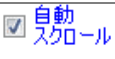



図 3-2

①	360M160 [47.151] No.2	接続前は No1～No6 表示の接続機器の単体操作の選択タブです。 接続されると機種名と IP アドレスの下位 2 バイトをタブ内に表示します。
②	IP アドレス 172 22 47 151 ポート番号 2268 OPEN CLOSE	IP アドレスの登録で、4 桁の 0～255 までの数値を設定する。 IP アドレスはシステム管理者に確認し重複しないアドレスを設定します。 ソケット通信のポート番号で、PSW は 2268 番を使用します。 設定されている IP アドレスで接続を行います。 対象の IP アドレスが無い場合には説明エラーを④の受信バッファに直ぐに表示します。 対象機器がある場合には CLOSE ボタンの上に ■■■ のゲージを表示し 2.5 秒後に *IDN? コマンドを発行し PSW の機種名を取得し①のタブ名を設定して送信に関するコマンドボタンを有効にします。 切断します。自動ロギング機能が動作している場合には PSW に残データを取得してリモートモードを解除し切断します。
③	制御パネル ID No. 0 [V] set 0 [A] set ON OFF 1 [Sec] set Min Set	PSW の Web サーバー有効設定の時に、PSW のブラウザを表示します。 (PSW のパネル設定で F-59 の設定が 1 の時に有効です。) 機種 ID を取得します。 送信コマンド) " *IDN?" 電圧設定コマンドで左の数値を組み合わせて設定します。 送信コマンド例) " VOLT 0" 電流設定コマンドで左の数値を組み合わせて設定します。 送信コマンド例) " CURR 0" 出力オンを設定します。 送信コマンド) " OUTP ON" 出力オフを設定します。 送信コマンド) " OUTP OFF" ロギングのサンプルの間隔を 0.1～999.9 秒の範囲で設定します。 送信コマンド例) "SENS:DLOG:PER 1" 自動ロギングモード実行時は無効になります。 ロギングのサンプルの間隔を最短時間に設定します。 送信コマンド) "SENS:DLOG:PER MIN" 自動ロギングモード実行時は無効になります。

③		ロギング測定を開始します。 送信コマンド) "SENS:DLOG:STAT 2" 自動ロギングモード実行時は無効になります。
		ロギング測定を停止します。 送信コマンド) "SENS:DLOG:STAT 0" 自動ロギングモード実行時は無効になります。
		出力オフ機能の出力オフのコマンドを送信までの時間を設定します。 設定範囲は時間 0~999[h]、分 0~999[m]の値を設定できます。 時間および分が共に 0 の場合には出力オフ機能は無効です。
		出力オフ機能の有効・無効を設定します。 出力オフ機能が有効設定の場合には右図の様にカウントダウン表示になります。 設定時間に達すると"OUTP OFF"コマンドを送信します。 注意)この機能は PC のタイマー機能を使用しています。
		出力オフ機能が動作した時に自動ロギングモードをオフする機能です。 ✓されていると機能が有効になります。
		コマンド入力のコンボボックスです。 【Send】ボタンで入力したコマンドを送信します。 送信したコマンドは送信履歴として直近の 12 種類までリスト内に記録します。 リストからのコマンド選択も可能です。
		
④		受信データリストの履歴を全て消去します。
		メッセージボックスで接続時のエラーメッセージや受信中のデータを表示します。 補足) 正常な状態では受信データを見る事はできません。
		受信データリストで機器からの受信データやロギング情報を表示します。 受信リストは 1000 行まで保存され古い順に削除されます。
⑤		選択した接続機器の連動操作の選択タブです。
⑥		ロギングデータリストの表示内容を消去します。 自動ロギングモードでは無効になります。
		手動操作時に一定間隔毎にロギングデータの取得コマンド"FETCH:DLOG?"を送信したい時に✓します。 自動ロギングモードでは無効になります。
		ロギングデータリストの内容を保存します。 ロギングリストにデータが無い場合には右図のメッセージが表示されます。
		
		ロギング取得コマンド送信までの時間が秒で表示されます。
		ロギング取得時間を秒で設定します。 設定範囲は 2~1000 の値です。
		✓状態はロギングデータを取得した時にロギングデータリストのカーソルを最終行に移動します。
		自動ロギングの有効・無効を設定します。 動作を開始する前にロギングのサンプリング間隔の設定を行ってください。 自動ロギングモードは PSW 本体に USB メモリーを挿入して動作させた時と同じ様に 1000 データ毎にファイル作成します。 自動更新が✓状態は無効です。

⑦	抽出時間	1.0	ロギングで取得したデータのサンプリング時間を秒で表示します。																														
	取得数	6	最後に取得した 1 回のロギングのデータ数を表示します。																														
	最大行数	15	ロギングデータリストのデータ数を表示します。																														
⑧	ロギングデータリスト		<table><tr><th></th><th>Number</th><th>Vmeas(V)</th><th>Imeas(A)</th><th>State(Hex)</th><th>Sample(S)</th></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>0.002</td><td>0.000</td><td>0x00000000</td><td>1.0</td></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>4.998</td><td>0.000</td><td>0x00000108</td><td>1.0</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>4.999</td><td>0.000</td><td>0x00000108</td><td>1.0</td></tr><tr><td>4</td><td>4</td><td>4.999</td><td>0.000</td><td>0x00000108</td><td>1.0</td></tr></table>		Number	Vmeas(V)	Imeas(A)	State(Hex)	Sample(S)	1	1	0.002	0.000	0x00000000	1.0	2	2	4.998	0.000	0x00000108	1.0	3	3	4.999	0.000	0x00000108	1.0	4	4	4.999	0.000	0x00000108	1.0
		Number	Vmeas(V)	Imeas(A)	State(Hex)	Sample(S)																											
	1	1	0.002	0.000	0x00000000	1.0																											
	2	2	4.998	0.000	0x00000108	1.0																											
	3	3	4.999	0.000	0x00000108	1.0																											
	4	4	4.999	0.000	0x00000108	1.0																											
			ロギングデータは上図の様に表示されます。																														
			Number はロギングを開始してからのサンプル個数です。																														
			Vmeas(V)は電圧測定値です。																														
			Imeas(A)は電流測定値です。																														
		State(Hex)は State 情報で 3-1 項の⑧で詳細を表示できます。																															
		Sample(S)はサンプリング時間です。手動モードでは連続してデータを取得できる為にロギングデータリストに表示しています。																															
		注意)																															
		ロギングデータリストは最大 250000 行まで登録できます。																															
		最大数を超えるデータは消去されます。																															

3-3 連動操作画面の説明

単体操作タブの一部の設定機能を連動操作する画面が図 3-3 の同期制御タブです。

連動操作のコマンド処理は選択したタブに対して最短時間で終了するように制御します。

注意) ロギングの終了処理は PSW 内の残データの全てを取り出す処理が 1 秒以上で設計されており
単体操作の自動オフ機能でロギングの停止処理が行われた場合など連動処理ができない場合があります。

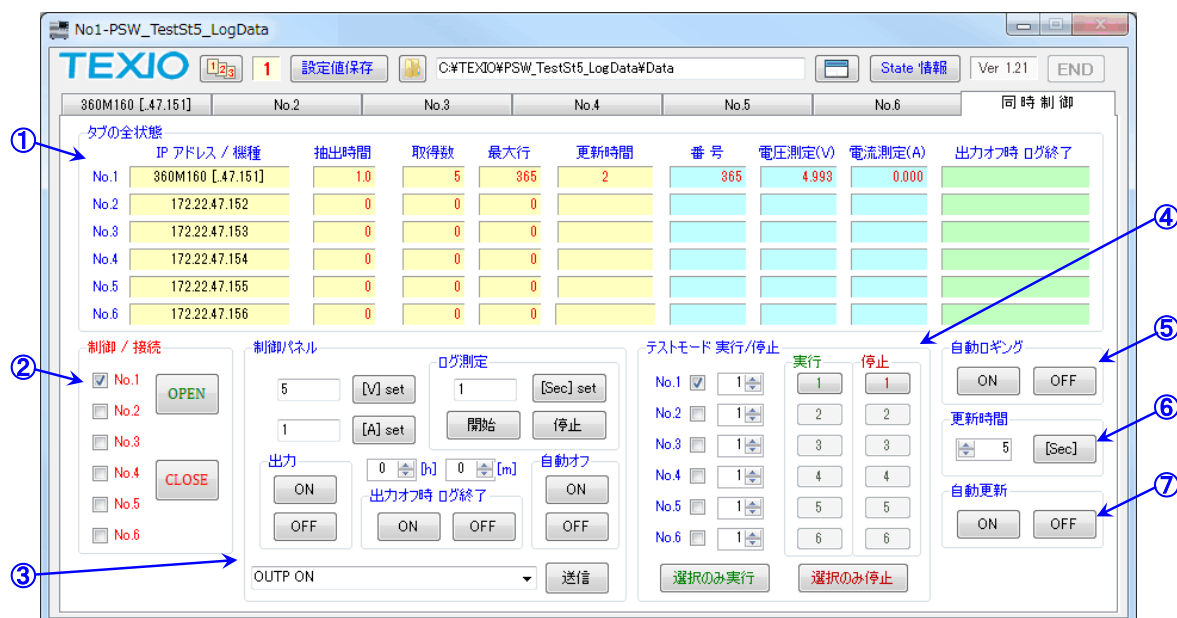


図 3-3

①	タブの全状態	No1 から No6 のタブの状態を表示します。
	IP アドレス / 機種 360M160 [4.7.151]	単体操作のIP登録アドレスが表示されます。 接続されるとタブの内容が表示されます。
	抽出時間 1.0	No1 から No6 の単体操作に表示されているロギングで取得したデータのサンプリング時間を秒で表示します。
	取得数 5	No1 から No6 の単体操作に表示されている最後に取得した 1 回のロギングのデータ数を表示します。
	最大行 32	No1 から No6 の単体操作に表示されているロギングデータリストのデータ数を表示します。
	更新時間 4	No1 から No6 の単体操作に表示されているロギング取得コマンド送信までの時間を秒で表示されます。
	番号 365	No1 から No6 の単体操作に表示されているロギングを開始してからのサンプル個数が表示されます。
	電圧測定(V) 4.993	No1 から No6 の単体操作に表示されている最後に取得したロギングの電圧測定値を表示します。
	電流測定(A) 0.000	No1 から No6 の単体操作に表示されている最後に取得したロギングの電流測定値を表示します。
	出力オフ時 ログ終了 0:00:32	No1 から No6 の単体操作で出力オフの機能が有効の時にカウントダウンの時間が表示されます。
②	制御 / 接続	連動操作するタブの選択および接続制御の処理です。
	<input checked="" type="checkbox"/> No.1	連動操作するタブを No1 から No6 のチェックボックスに✓します。
	OPEN	連動選択されているタブの IP アドレスで接続します。
	CLOSE	連動選択されているタブのリモートモードを解除し切断します。

③	制御パネル	単体操作の制御パネルを操作します。
	5 [V] set	連動選択されているタブの電圧設定コマンドを送信します。 送信が行えた時にタブの電圧設定値を更新します。
	1 [A] set	連動選択されているタブの電流設定コマンドを送信します。 送信が行えた時にタブの電流設定値を更新します。
	ログ測定 1 [Sec] set	連動選択されているタブログギングのサンプルの間隔の設定コマンドを送信します。 送信が行えた時にタブのサンプルの間隔の値を更新します。
	開始	連動選択されているタブのログギング測定を開始します。
	停止	連動選択されているタブのログギング測定を停止します。
	出力 ON OFF	連動選択されているタブの出力をオンまたはオフします。
	0 [h] 1 [m]	自動オフが ON または OFF が操作された時に連動で選択されているタブの出力オフ機能の時間を更新します。
	出力オフ時 ログ終了 ON OFF	連動選択されているタブの出力オフ時ログ終了のチェックボックスを操作します。ON は✓して、OFF は✓を外します。 単体操作のタブの状態が同じ場合には処理は行いません。
	自動オフ ON OFF	連動で選択されているタブの出力オフ機能を実行します。 ON は有効、OFF は無効になります。 単体操作のタブの状態が同じ場合には処理は行いません。
	OUTP ON 送信	コマンド入力コンボボックスです。 Send ボタンが押されると連動で選択されているタブにもコマンド入力内容を設定し送信します。
④	テストモード 実行/停止	PSW に登録されているテストプログラムの起動および停止処理の操作
	No.1 1	PSW 内の実行するテストモードのプログラム番号を設定します。 No1 から No6 のチェックボックスに✓を選択すると選択のみの実行停止ができます。
	実行 1	単独開始ボタンで、設定されているプログラム番号で PSW のテストプログラムを開始します。
	停止 1	単独停止ボタンで、テストプログラムを停止します。
	選択のみ実行	テストモード 実行/停止内の No1 から No6 で✓されているタブのテストプログラムを開始します。
	選択のみ停止	テストモード 実行/停止内の No1 から No6 で✓されているタブのテストプログラムを停止します。
⑤	自動ログギング ON OFF	連動選択されているタブの自動ログギングを実行します。 ON 操作時は自動ログギングが開始できる状態のタブのみ ON にします。 OFF 操作時は自動ログギング状態のタブのみ OFF にします。
⑥	更新時間 5 [Sec]	連動選択されているタブの更新時間を操作します。 [Sec]ボタンで設定内容を更新します。
⑦	自動更新 ON OFF	連動選択されているタブの自動更新のチェックボックスを操作します。操作可能な状態の時のみチェックボックスの状態を更新します。 ON 操作時は自動更新のチェックボックスを✓します。 OFF 操作時は自動更新のチェックボックスの✓を外します。

3-4 起動条件設定画面の説明

アプリケーション 1 のみ図 3-4 の起動条件設定画面で表示できます。
この画面では2～6のアプリケーションを開く機能の他にアプリケーション1を起動した時の2～6のアプリケーションを開く設定や前回終了した座標で表示する設定を行う事ができます。
その他に1～6アプリケーション共通設定の表示言語の選択機能もあります。
※ 2～6のアプリケーションは再起動時に機能が有効になります。

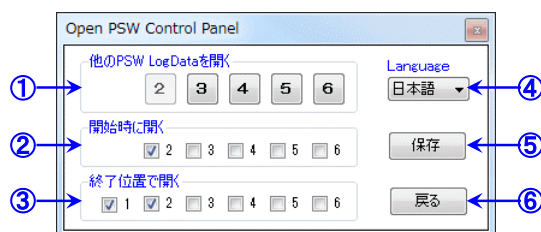


図 3-4

①	他のPSW LogDataを開く	2 から 6 番のアプリケーションを開きます。
②	開始時に開く	✓した番号はアプリケーション1を起動した時に開きます。
③	終了位置で開く	アプリケーションの再起動時に前回終了した表示位置に表示します。 1 から 6 の✓したアプリケーションが対象になります。
④	Language	日本語または English の表示言語の選択ができます。
⑤	保存	1 から 6 の設定内容を全て保存します。 表示言語の設定はアプリケーション 1 のみ保存直後に切り替わりますが、2 から 6 のアプリケーションは再起動時に有効になります。
⑥	戻る	起動条件設定のパネルを閉じます。

補足) 2画面使用等で終了位置が画面の範囲外にある場合には標準の表示位置になります。

3-5 State 情報画面の説明

ロギングデータの State(Hex)の 32Bit の内容が表示されます。
図 3-5 がステータス Bit のコード表です。

PSW Logging Status bit code			
ステータス Bit コード表			
Bit	Operation ステータス	Bit	Question ステータス
0	校正モード	16	過電圧保護 (OVP)
1	ロック状態	17	過電流保護 (OCP)
2	---	18	---
3	出力 OFF/ON	19	AC入力オフ
4	リモート	20	過熱保護 (OTP)
5	トリガー待ち	21	---
6	---	22	---
7	---	23	---
8	定電圧モード (CV)	24	過電圧リミット (VL)
9	---	25	過電流リミット (CL)
10	定電流モード (CC)	26	---
11	出力ON 遅延	27	シャットダウンアラーム
12	出力OFF 遅延	28	過電力リミット (PL)
13	---	29	---
14	テスト実行 (TEST)	30	---
15	---	31	---

図 3-5

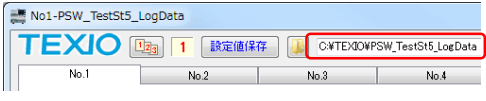
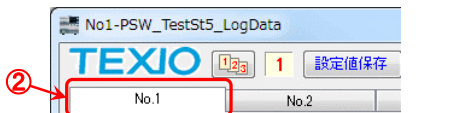
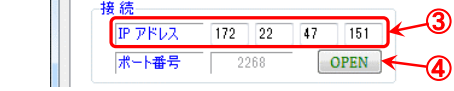
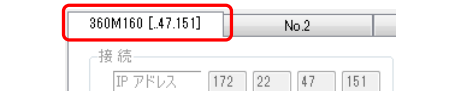

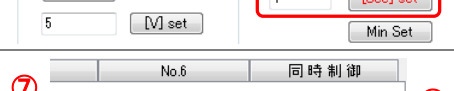
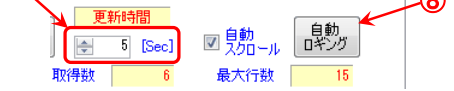

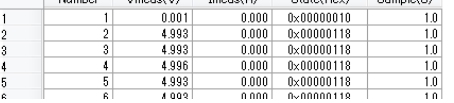
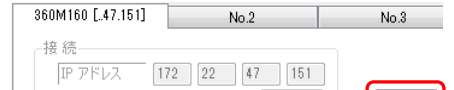
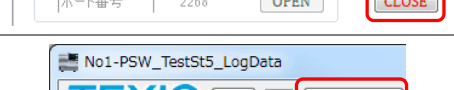
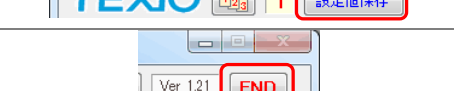
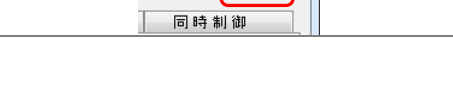
テスト実行中の bit14 が 1 にセットされた時は 0x00004000 になります。
定電圧モード(CC)と出力 ON 遅延の Bit8 と Bit11 が 1 にセットされた時は 0x00009000 になります。
また、10, 11, 12, 13, 14, 15 の数値は A, B, C, D, E, F の文字になります。

第4章 操作手順

本章では、インストール終了後のロギング動作の方法を説明します。

4-1 自動ロギング機能の操作

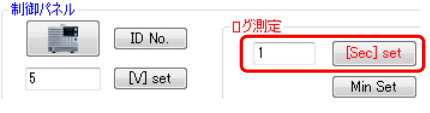

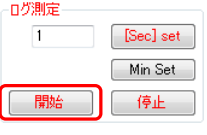



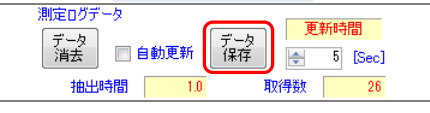
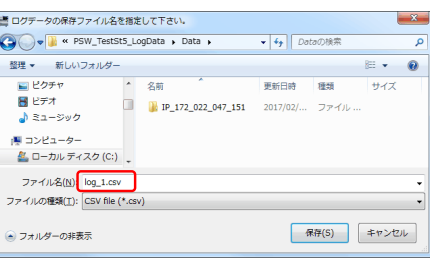

起動後の設定からの流れを説明します。各機能は3章を参照してください。

① データを保存するフォルダを確認します。 デフォルト設定は下記のフォルダになっています。 C:\TEXIO\PSW_TestSt5_LogData\Data 保存場所を変更する場合、接続する前に行います。	
② 接続画面を No1～No6 のタブをクリックします。 例では No1 のタブ表示を使用します。	
③ 接続した PSW の4桁の IP アドレスを入力します。 初期値は全て 192. 168. 1. 1 になっています。 右図では 172. 22. 47. 151 に設定した例です。	
④ 【OPEN】をクリックし接続処理を開始します。	
⑤ 接続できると右図の様に No1 のタブ名が機種名と下位 2 バイトのアドレスが表示されます。 接続を失敗した場合は配線や IP アドレスを再確認してください。	
⑥ ロギングのサンプリング時間を設定します。 【[Sec] set】をクリックします。 右図の例では 1 秒を設定します。	
⑦ ロギングデータを取得する間隔を設定します。 ロギングのサンプリング時間より短い場合、データを取得できない時もありますが動作に影響しません。	
⑧ 【自動ロギング】をクリックしてロギングを開始します。	
⑨ 自動ロギングを開始すると緑色に変わります。 データを取得するとロギングデータリストにデータが設定されます。	
<< データ取得中！PSW の操作などを行います>>	
⑩ 【自動ロギング】をクリックしてロギングを終了します。	
⑪ 【CLOSE】をクリックし切断します。	
⑫ 【設定値保存】をクリックして保存データフォルダおよび No1～No6 の設定条件を保存します。	
⑬ 【END】をクリックしアプリケーションを終了します。	

4-2 手動ロギング機能の操作

手動操作のロギング機能は画面上でロギングデータを確認したい場合やロギングコマンドの送受信の確認などを行う事を目的にしています。

従って、手動操作ではロギングの開始と終了、ファイルの保存、受信データリストの初期化など全ての操作が必要になります。ロギング機能のコマンド確認のツールとして利用できます。

① PSW の接続までは 4-1 項の①～⑤と同じ操作になりますので参照してください。	
② ロギングのサンプリング時間を設定します。 【[Sec] set】をクリックします。 右図の例では 1 秒が設定されます。 注意)ロギング動作中も設定可能ですが、データ上では何処から	
③ ロギングデータを取得する間隔を設定します。 ロギングのサンプリング時間より短い場合、データを取得できない時もありますが動作に影響しません。	
④ 自動更新に✓を付けます。 ロギングの取得のみ開始します。	
⑤ 【開始】をクリックすると PSW のロギングが開始されます。ロギング取得時間になるとロギングデータリストにデータが設定されます。	
<< データ取得中！PSW の操作などを行います>>	
⑥ サンプリングが 1 秒で 5 秒間隔の取得設定になっているのでデータは5個毎(処理時間の関係で 6 個の場合もあります)に取得されています。 自動更新の✓を外します	
⑦ 20 秒程度経過した時に再び自動更新の✓を付けます。データが取得されると PSW 本体内の 20 個程度のデータが取得できます。	
⑧ 【停止】をクリックしロギングを終了します。 ロギングを終了するとデータが削除されるのでロギングデータ受信後に操作してください。	
⑨ 【データ保存】をクリックしてロギングデータリストにデータをファイルに保存します。	
⑩ log_1.csv のデフォルトファイル名で保存用のダイアログボックスが表示されます。 必用に応じてファイル名を変更して保存します。 デフォルトフォルダ名の数値は No1～No6 に対応しています。 開かれるフォルダは『データの保存先フォルダ』で設定したフォルダが初期値になります。	
⑪ ロギングデータリストの内容を消去するには【データ消去】をクリックします。	
⑫ アプリケーションの終了までは 4-1 項の⑪～⑬と同じ操作になりますので参照してください。	

補足)

1 回の最大データ数は 1000 個なので 1000 を超える場合、再度ログデータ要求コマンドを送信してデータを受信する必要があります。更新時間は 1000 個以内で取得するように設定してください。

第5章 データの保存形式

本章では、保存されるデータ形式の説明になります。

5-1 自動ロギングデータの保存形式

自動ロギングの場合は『データの保存先フォルダ』の下に接続した IP アドレスでフォルダ名を作成して日時を付加したファイル名を作成します。

フォルダ名 IP_①_②_③_④

“IP_”ヘッダーの後に設定した 4 バイトの IP アドレスを 3 桁の数字にして①～④に”_”で分割した内容でフォルダ名を作成します。

例) IP_172_022_047_013

ファイル名 T①_②_③.csv

“T”ヘッダーの後に保存する時の日時で下表の様に①～③の内容を”_”で分割した形式で csv ファイル名称を作成します。

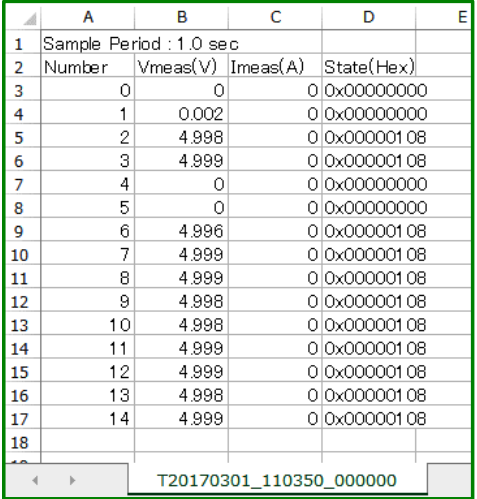
①	日付	年 4 桁、月 2 桁、日 2 桁の全 8 桁の数値
②	時間	時 2 桁、分 2 桁、秒 2 桁の全 6 桁数値（時間は 0～23 の値になります）
③	回数	ロギングデータを連続して保存した回数の 6 桁数値（初回は 0 です）

例) T20170301_110350_000000.csv

csv ファイルのデータ形式

行数	データ概要	データ並び	パラメータ
1	サンプリング時間	Sample Period : ① sec	①: 秒
2	データヘッダー	Number,Vmeas(V),Imeas(A),State(Hex)	固定文字列
3	先頭データ	②,③,④,⑤	②サンプル番号、③電圧[V] ④電流[A]、⑤状態[Hex]
4	2番目のデータ	②,③,④,⑤	
:	:	:	

参考データ例)

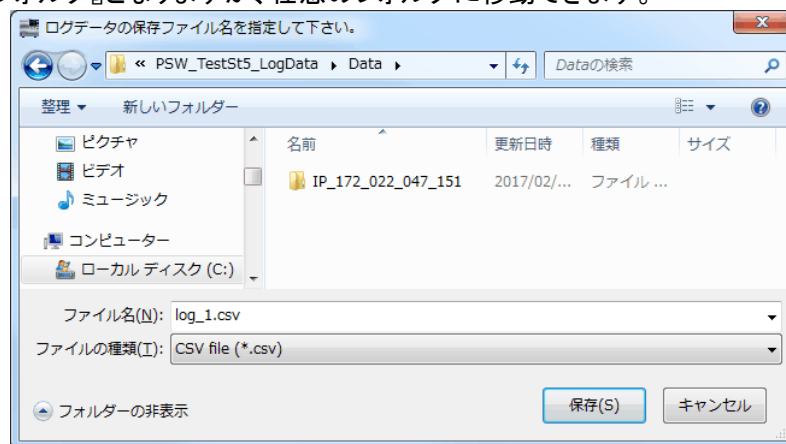
csv のデータ	Excel で開いた時の形式
Sample Period : 1.0 sec Number,Vmeas(V),Imeas(A),State(Hex) 0,0.000,0.000,0x00000000 1,0.002,0.000,0x00000000 2,4.998,0.000,0x00000108 3,4.999,0.000,0x00000108 4,0.000,0.000,0x00000000 5,0.000,0.000,0x00000000 6,4.996,0.000,0x00000108 7,4.999,0.000,0x00000108 8,4.999,0.000,0x00000108 9,4.998,0.000,0x00000108 10,4.998,0.000,0x00000108 11,4.999,0.000,0x00000108 12,4.999,0.000,0x00000108 13,4.998,0.000,0x00000108 14,4.999,0.000,0x00000108	

5-2 手動ロギングデータの保存形式

手動ロギングの場合は保存時に任意のフォルダへファイル名を設定して保存します。
また、保存データは画面に表示されている内容と同じ形式で自動ロギングとは異なります。

フォルダ名

【データ保存】をクリックした時に保存用のダイアログボックスが開きます。保存フォルダは『データの保存先フォルダ』となりますが、任意のフォルダに移動できます。



ファイル名 log_①.csv

表示されているファイル名はデフォルト値で必要に応じてファイル名を設定して保存します。
デフォルト名は接続画面の No1～No6 の数値が①の部分に適応されます。

例) log_1.csv

csv ファイルのデータ形式

行数	データ概要	データ並び	パラメータ
1	データヘッダー	Number,Vmeas(V),Imeas(A),State(Hex),Sample(S)	固定文字列
2	先頭データ	①,②,③,④,⑤	①サンプル番号、
3	2番目のデータ	①,②,③,④,⑤	②電圧[V]、③電流[A]、
4	3番目のデータ	①,②,③,④,⑤	④状態[Hex]、
:	:	:	⑤サンプリング時間[秒]
:	:	:	

参考データ例)

csv のデータ	Excel で開いた時の形式
Number, Vmeas (V), Imeas (A), State (Hex), Sample (S) 1, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 2, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 3, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 4, 4.999, 0.000, 0x00000108, 1.0 5, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 6, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 7, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 8, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 9, 0.000, 0.000, 0x00000000, 1.0 10, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 11, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 12, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 13, 4.999, 0.000, 0x00000108, 1.0 14, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0 15, 4.998, 0.000, 0x00000108, 1.0	

第6章 付録

6-1 アプリケーションのフォルダ構成

インストーラの既定値でインストールを行い1回実行すると下記のフォルダになります。

C:\¥TEXIO¥PSW_TestSt5_Test	既定のインストールフォルダ
C:\¥TEXIO¥PSW_TestSt5_Test¥Data	既定の初期データ保存フォルダ
C:\¥TEXIO¥PSW_TestSt5_Test¥Setting	既定の設定条件保存フォルダ

6-2 English モードの表示画面

English モード設定の画面表示で図 6-2A が単体操作画面、図 6-2B が連動操作画面になります。

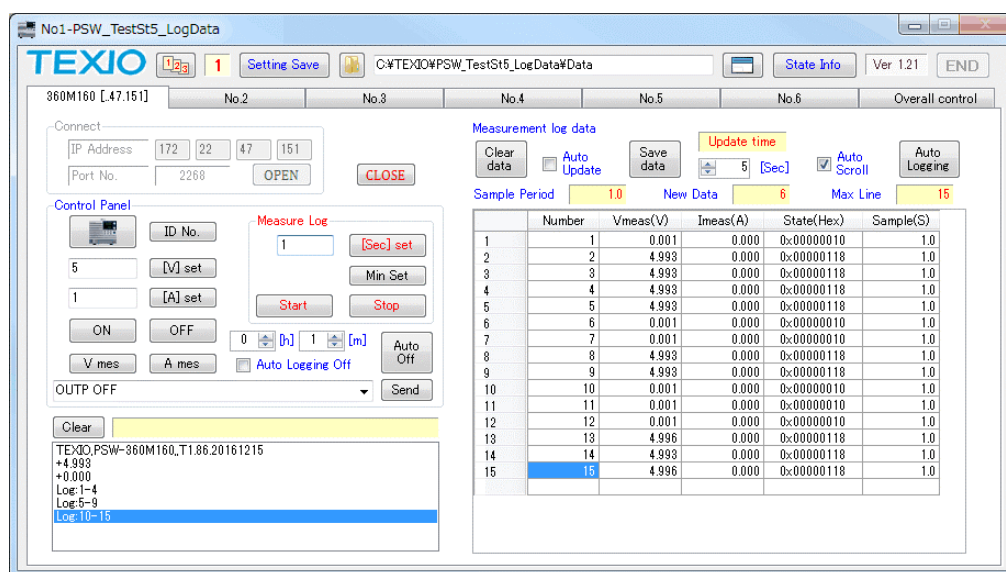


図 6-2A

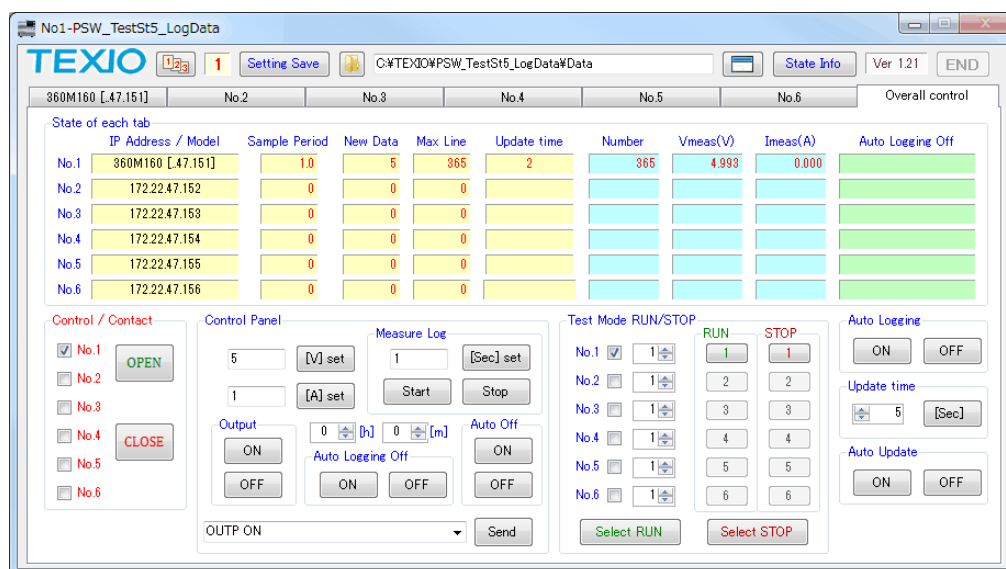


図 6-2B



株式会社 テクシオ・テクノロジー

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-18-13 藤和不動産新横浜ビル 7F
<http://www.texio.co.jp>

アフターサービスに関しては下記サービスセンターへ

サービスセンター 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-18-13 藤和不動産新横浜ビル 8F
TEL.045-620-2786